

2025年度 第1回 藤沢市立六会中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年 5月 22日（木）10時～
場 所 六会中学校 第一会議室

出席委員	滝内 洋子 (前学園都市むつあい協力者会議会長) 五十嵐 直美 (地域コーディネーター 六会地区青少年育成協力会副会長) 堀田 英二 (前六会地区自治連合会会長、六会中学校学習支援員) 人見 甲子郎 (フリースクール(森の仔じゆうがっこう)事務局長) 江添 達男 (六会市民センター長) 玉置 日菜子 (六会地区担当CSW(コミュニティソーシャルワーカー)) 堀 千鶴 (六会中学校同窓会長) 石川 智美 (六会中学校リーダーズ) 加瀬 晶 (六会中学校校長) 浅場 純子 (六会中学校教頭)
次第	1.開会 加瀬校長挨拶 2.委嘱状の交付 3.自己紹介 4.会長ならびに副会長の選出 会長：滝内委員(推薦) 副会長：加瀬委員(推薦) ※会議の傍聴についての確認(浅場委員) 5.議題 令和7年度藤沢市立六会中学校 学校運営方針について 6.その他 今後の会議日程の確認 7.閉会
	(意見等) *5について (江添委員)教職員の不足はあるのか。 (加瀬副会長)教科に穴はないが人数的には不足している。市への要求は毎年している。人員配置とは別に、教員の仕事の魅力も発信していきたい。

協議内容

(五十嵐委員) 保護者対応が大変ということもあるのか。

(加瀬副会長) 学校と保護者が共に考えていけたらよいが、日頃のかかわりが減少し、コミュニケーションが取りづらい。対応への疲弊は、普段の生徒とのかかわりにも直結する。生徒とも授業以外で関わる時間がとれない。心のゆとりが持てないこともある。

(石川委員) 保護者は先生たちにもっと関わりたいと思っているが、その機会が減った。子は親の影響を強く受けるので、家庭で親が先生のことを良く言っていないと、子と先生の関係もうまくいかないだろう。保育園では保護者支援を重視している。またコロナ禍を経て、十分なコミュニケーションスキルを得られていない子がいるとの話があったが、子どもの発達は乳幼児期の育ちにもかかわる。地域でなにかできることがあればと思う。

(人見委員) 教員は何に時間を割くのか。

(加瀬副会長) 授業、テスト、担当事務、出張、生徒指導等。部活は必須ではないが実質必須になっている。授業、部活後の 17 時すぎから教科の準備や事務を行い、退勤が 20、21 時になる教員も多い。

(人見委員) 世間は「教員は労働時間が長い」という印象を持っている。他業種もそうなのに、教員はその印象が強い。魅力発信よりも「早く帰れる」ということを発信し、若い世代が安心できることが大切ではないか。

(加瀬副会長) 教師になりたいという人が、なってよかったと思える現場にしていきたい。

(人見委員) 六会中としてはどう働きやすくしていくのか。

(加瀬副会長) 帰宅を促して帰る教員もいるが、“生徒にしていきたい”という思いで、遅くまで残る教員もいる。そういう思いを無下にもできないので難しい。

(人見委員) 120%出せば良いパフォーマンスはできるが、それは頑張りすぎているということでもある。60, 70%でも良いということ示していかないと、良い先生ほど辞めてしまう。

(堀田委員) 先生はまじめな人が多いと思う。負担であり、生きがいでもあると思うので、働き方を変える難しさがあるだろう。

(浅場委員) SSSが教員の業務、例えば印刷等をサポートしてくれて、仕事の負担がかなり軽減されている。部活では、女子バレー部には外部指導者がおり、助かっている。

(加瀬副会長) ベテランの先生が減っている。支える側の先生も若いので、それぞれの立場でいっぱい。

(江添委員) 教員でないとできない業務とそうでない業務のすみ分けを現場サイドで自主的に行う必要がある。先生は余裕があって然るべき。業務をなんとかこなすことで手一杯では本末転倒。120%の頑張りや先生の気持ちを尊重したいが、組織としてはセーブをかける必要もある。120%が当たり前になってしまうと働き方改革も進まない。

(五十嵐委員) 例えば、夏休みが1週間短くなると先生の負担は少し平坦になるものか。また、前期後期制になって負担の変化などあるか。

(加瀬副会長) 前期後期制になってテストの回数が減ったことは、負担軽減になったと感じる。夏休みが短くなることによる負担軽減は考えにくい。夏休み期間にやっておきたい業務も多い。

(玉置委員) 余裕がなく仕事に追われていると、子どもや保護者と関わる余裕が持てない。思いのある先生ほど、「今日も声かけられなかった」等の思いが積み重なり、やりきれなさ、モチベーション低下につながると思うので、業務のすみ分けは必要であると思う。

(堀委員) 「自分の時間はすべてこどものために」「担任をもっていないとつまらない」という先生が昔は多かったが、今の時代に合わなくなっているので、切り替えるタイミングなのかもしれない。地域にはなかなか知りえない部分もあるので、コミスクを活用して発信していけると良い。

(堀田委員) 人を増やすことが一番の改革の早道かと思う。

*加瀬副会長より『用務員欠員』と『特別支援級開設にあたる備品』について

- ・用務員が欠員状態。ゴミ収集、修繕など、様々なことを担ってくれている。ブロック内での用務員のフォローはあるようだが、10月まで配置がなく、現在は毎日教員がゴミ捨てなどしている。

→以前、芝生の水やりで地域や保護者がボランティアをしていたことがある。

また地域でサポートできないか。市民活動としてボランティア保険も適応できる。コミスクのぶら下がり機関として登録制のボランティア活動にできれば、今後にもつながる。すぐに実現できそうなのは、リーダーズに声かけすることか。

- ・特別支援級開設にあたり、必要物品の購入に予算がつかない。開設時に揃わない物がでてくることが予想される。

→学校から必要な物の発信を受け、リユース品や地域に寄付など声かけることは可能。

次回開催日程 9月30日(火)
会 場 六会中学校